



“聴くことのできる人を育てる”NPO 法人研修グループ

P.L.A ニュース 第38号

パートナーシップ アンド リスニング アソシエーション

2015年10月15日発行

発行者 P.L.A 事務所 〒101-0046 千代田区神田多町2丁目7番3号 三好ビル 801号室 平日 12:00~17:00

TEL&Fax 03-3255-2882 E-mail : info@pla-keicho.org ホームページ:http://pla-keicho.org/

私の傾聴ボランティア体験

傾聴ボランティアの活動をはじめて、早や6年。あっという間の年月でしたが、いつの間にか数えきれない一期一会をいただいております。

私が活動する施設は、認知症の方が多くいらっしゃるのので、毎回「はじめまして」の気持ちで傾聴スイッチを入れます。認知症の方のお話はどうしても同じ内容になりがちですが、そのお話を何度も何度も繰り返しお聴きしているうちに、少しずつ話の展開が変わってくることに気がつくことがあります。意地悪だったお姑さんに言い返したことがあったこと。お姑さんが亡くなる前に「ありがとう」を言ってくれたこと。繰り返し同じ話をすることで脳が活性化され、忘れていた記憶が蘇るかのようです。また、「死にたい。生きていても仕方ない」と話してくださる方に、「天国に会いたい方がいらっしゃるのですか？」とお尋ねすると、先きに亡くなられた自慢の旦那様のお話をうれしそうにしてくださったこともありました。「奉仕」されることを極端に嫌がられた気骨ある男性の傾聴には、一般の訪問客を装ってお話を伺ったこともあります。しかし、これは大失敗に終わり、話してもらえなくなるという苦い経験になりました。

たくさんの経験を重ね試行錯誤してきたことで、今では緊張せず傾聴をすることができるようになってきましたが、それでも毎回、傾聴をはじめる時のお声がけには神経を使います。突然現れた人間に安心してお話をしてもらえるような柔らかく安心できる雰囲気を作ることは、より良い傾聴ができる第一歩だと感じています。また、高齢者の傾聴は突然のお別れで次回がなくなることが起こります。5年間担当をさせていただいた方が昨年亡くなられた時には、大きな動揺がありましたが、その方のおかげで、一回一回の傾聴の時間を心から大切にしたいと思う学びになりました。

お話を聴かせていただきながら、たくさんの方の人生に寄り添う事ができることで、私の人生も豊かになっていく気がしております。お話をしてくださったみなさまに心から感謝申し上げます。

昭島市傾聴ボランティアさざなみ 藤原昌子

<10周年記念誌> —傾聴 聴く人を育てる P.L.A とボランティアの実際—

いよいよ第7回ボランティア交流会(12/11)でお披露目!! P.L.A とボランティアの皆さまの10年の活動の集大成です。今後の活動に役立つように「シナリオ」も掲載しています。ぜひお役立てください。

(売価未定・購入方法は2016年1月中旬発行の P.L.A ニュース 39号でお知らせします。)

